和渕小学校　国語授業研修　五年「大造じいさんとがん」④

令和二年二月四日（木）二校時

【学習の導入】一分

T　挨拶をします。腰を立てて。おはようございます。

C　おはようございます。

T　（昨日家に帰って）教科書を開いた人？（半数くらい挙手）

T　（昨日家に帰って）ノートを開いた人？（０人）

【よむ】八分

T　読んでもらいます。今日は三（の場面）だけ読みます。半沢さん、三。あいかさん、三の最初の○。ゆうかさん、三の二つ目の○。ゆきなさんが三つ目の○。

読む人は立ってゆっくりでいいからね。聞く人は考えながら聞いてください。半沢さん、題を読んでからね。

C（一人一人、立って音読する。半沢さん、ゆっくり読む。あいさんは、声は小さいが普通のスピードで読む。ゆうかさんは、かなり小さな声であるが、読み方は正しい。ゆきなさんは、自分の順番が近付いてくると、約束どおり立って読んだ。）

T　本を静かに置いて。今日も四人、一生懸命読んでくれました。

【とく】十分

T　昨日までの勉強を振り返ってみましょう。（黒板に沼地を○で表しながら）三年目でおとりの作戦でした。大造じいさんが口笛を吹こうと思ったら、がんの群れが一斉に飛び上がったよ。何がその理由でしたか？一斉に飛び上がった理由。

C　はやぶさが来たから。

T　そう、はやぶさが来たから。はやぶさは上の方からヒューと落ちてくる。がんの群れを先頭に（なって）引っ張るのは誰？

C　残雪。

T　残雪が先頭に立って行く。一羽だけ遅れた鳥は？

C　おとりのがん。

T　（黒板の図におとりのがんを書き加える。）これ（おとりのがん）は、二年間こうやってた（かわいがっていた）から反応が遅かった。ピュッピュッ（大造じいさんの口笛）で、おとりのがんは遅れたけれど、大造じいさんの方にきました。はやぶさは、誰を狙うかというと…。おとりのがんに…。

T　はやぶさの武器は？

C　足。
T　足も強い、すごい。まだあるよ、武器。
C　くちばし。
T　肉を食べるので口。足と口、もう一つは？
C　飛ぶ速さ。
T　よく知ってるね。速さがすごいんです。普通に飛んでも時速百キロ以上。上に上がり、そして下がると、落ちるスピードも使うからすごい。（時速）二、三百キロになる。おとりのがんを蹴って、がんはぐらっとくる。そこに飛んできたのは？
C　残雪。
T　残雪が来ました。撃ったら弾が届く所に来た。じっと狙いながら、残雪の姿を見たら撃つのを止めた、というのが昨日の話。
T　撃つのを止めた大造じいさんをどう思う？（私は）止めた大造じいさんもなかなかの人だと思った。撃たなかったが捕まえた。残雪の体は？
C　くれない（紅）。
T　ここが赤くなっていたということは？
C　出血していた。
T　そういう残雪だったが、大造じいさんが近付いていったらどうした？
C　力を絞って首を持ち上げた。
T　そして？
C　大造じいさんを正面からにらみつけた。

【かく】十一分

T　そこを開いてください。一八〇ページ、みんな見てね。「残雪はむねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていました。しかし、第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げました。そして、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。」その次の所から三の終わりまで書いて考えます。昨日のように、大きな字でゆっくり、しっかり書いてください。
C　（書き始める。）
C　どこから？
T　「大造じいさんが手をのばしても」から最後まで。説明が悪かったね。ゆっくり書くんだよ。
T　（黒板に書く。）
T　（板書が終わって教科書と確認する。）

T　（その後、机間指導。「よしよし。」「一生懸命！」等一言声を掛けながら回る。）

【とく】十二分

T　よく書けていました。鉛筆をノートに挟んで閉じる。教科書も閉じてください。

T　さて、順番は誰かな？旭君読んでください。

C　（板書の文章を読む。）

T　はい、ありがとう。分からない言葉はない？

T　最期、これはどういう意味？この字を書いたらどう思う？

C　自分の終わり。

T　自分の終わりということは、命が終わるということ。（黒板の「期」の脇に赤で「死」と入れる。）

T　「いげん」とはどういう意味？

C　偉い人のような態度。

T　威厳があると言ったら、例えば、姿勢とか。威厳のある目をしてごらん。

T　（黒板の文章を指して）二つに分けます。どこで分けようか。

C　「努力しているようでもありました。」とその次から最後。

T　いいか？

C　（子供たち）いいと思います。

T　前（前段）は誰のこと？

C　大造じいさんのこと。

C　残雪。

T　前は残雪。後ろは？

C　大造じいさん。

T　さあ、残雪。大造じいさんが手を伸ばして残雪はもう最期です。胸からは血が流れている。もう死ぬかも知れない。死を感じたときの態度。どういう態度で臨もうとしているの？

C　頭領としての態度。

T　頭領のってどんな態度？

C　偉そうな、威厳のある態度。

T　首は？

C　首は…。

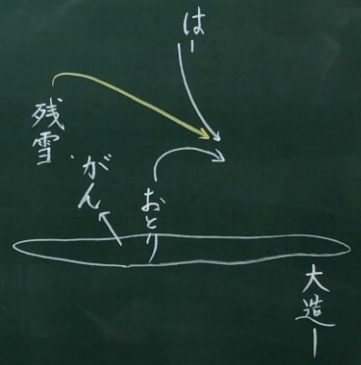
T　本当は、残雪どうなんですか？傷ついて胸から血が出ているんですよ。本当なら痛くて苦しくて…。最初行ったとき、残雪はぐったり。大造じいさんが来たらぐっと。

T　もう一つ、もう一つ何だ？
C　じたばた騒がない。
T　どういうこと？
C　暴れない。
T　じたばたとは？
C　捕まるとき抵抗するような。
T　もうじたばたしない。騒がない。それは、普通にやったらできない。苦しくてもう死ぬんですから。
T　残雪はたいへんな強い気持ちでやってる。その言葉はどれ？
C　「最期のときを感じて」。
C　「努力している。」
T　ただの努力ではなく、たいへんな努力が。それを見て大造じいさんはどう思ったか。こういう残雪を見てどう思ったの？
T　ただの鳥に対しているような気がしなかった。
T　対してというのは？それくらい感動しているのは、どこにある？
C　強く心を打たれて。
T　そうです（黒板に線を引く）。
T　ただの鳥と思えないということは、何だと思いますか？（しばし間がある）
　それは、考えておいてください。

【よむ】二分
T　読んで終わり。
C　（声を出して黒板の文章を読む。）
T　もう一回読もう。
C　（声を出してもう一度読む。）
T　鳥に対しているような気がしなかった。私はどうも鳥に対しているような気がしてるんだが、どうだ？
（余韻を残して終わる）
T　終わります。さようなら。

二月四日(木)曇 このみさん

めあて 始業時間を守る



大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もう、じたばたさわぎませんでした。最期のときを感じて、せめて、頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。

大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対しているような気がしませんでした。

大造じいさんと残雪 総合